

特集

東日本大震災から12年、 フィールドワークで 被災地の今を学ぶ

● なにわの医療道場
● いがくせいだより
● けんしゅうエッセー

● 高校生・受験生の
みなさんへ
● 「未来の医師を応援」
合格HISTORY

私たちは
おおさか民医連
Osaka Min-iren



大阪民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。2023年、連合会設立70周年を迎えました。現在、4つの病院、49の診療所、7つの歯科診療所、32の訪問看護ステーション、35の保険薬局、2つの老健施設、薬剤・診療材料センター、看護専門学校、検査センター、在宅看護支援センターそして社会医学研究所が、大阪民医連に加盟しています（2022年3月現在）。病院・診療所での実習を、随時受け入れています。

※医学生センターは、阿倍野医学生センター（大阪公立大学近辺）、枚方医学生センター（関西医科大学近辺）、狭山医学生センター（近畿大学近辺）の3つです。

奨学金 制度

大阪民医連では、いつでも、どこでも、だれもが安心してよい医療を提供できる医療機関を目指しています。私たちの医療活動に共感し、ともに働く意思のある方を対象に奨学金を貸与しています。

●対象学年と奨学金（月額）

Aコース	1～2年生	50,000円	3～4年生	60,000円	5～6年生	70,000円
Bコース	全学年	100,000円				

他の奨学金と併用できます。詳しくはお問い合わせください

大阪民医連の病院紹介（詳細は各病院のHPをご覧ください）

臨床研修
指定病院



耳原総合病院（病床数 386床）

- 大阪府堺市堺区協和町4丁465 TEL.072-241-0501代
- 南海高野線堺東駅よりバス10分

臨床研修
指定病院



西淀病院（病床数 218床）

- 大阪市西淀川区野里3-5-22 TEL.06-6472-1141
- JR東西線御幣島駅徒歩5分



東大阪生協病院（病床数 99床）

- 東大阪市長瀬町1-7-7 TEL.06-6727-3131
- 近鉄大阪線長瀬駅徒歩3分



コープおおさか病院（病床数 166床）

- 大阪市鶴見区鶴見3丁目6-22 TEL.06-6914-1100
- 地下鉄長堀鶴見緑地線今福鶴見駅徒歩4分



はじめまして民医連です

私たちは民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現を目指す組織です。
戦後、医療に恵まれない人々と医療従事者が手をたずさえて各地で民主診療所が作られました。そして、1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を立ち上げました。

それから70年、なによりも地域の人たちの思いを大切に、地域に求められる医療を行ってきました。

最も困難な人たちの立場に立つて、寄り添う。

設立以来一貫して、無差別・平等の理念を掲げる私たちの病院は、差額ベッド代を(※1)頂いていません。また、無料低額診療にも(※2)取り組んでいます。これは、「お金のあるなしで医療に差別があつてはならない」という私たちの考えによるものです。

※1…医療保険外の実費負担費用。病院によって金額は異なる ※2…低所得者などに無料または低額な料金で行う診療

民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

- 一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
- 一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
- 一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
- 一、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
- 一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

2010年2月27日
全日本民主医療機関連合会

民医連の組織現勢

全日本民医連加盟事業所数	(2022.1現在)
病院	142
有床診療所	12
無床診療所	474
歯科診療所	78
訪問看護ステーション	234
保険薬局	349
薬剤・診療材料センター	33
看護・介護学校	8
検査センター	2
老人保健施設	51
介護医療院	1
在宅介護支援センター	24
特別養護老人ホーム	37
鍼灸所	3
研究所	2
ヘルパーステーション	51
グループホーム	21
在宅介護福祉関係	212
ケアハウス	11
その他	13
合計	1,758

主な医療団体との比較

職員数

民医連	83,618	(2021.10.1)
日赤	67,556	(2021.3.31)
厚生連	55,849	(2021.3.31)
済生会	64,000	(2020.3.31)

1日平均の外来患者数

民医連	55,417	(2020年度)
日赤	約60,000	(2020年度)
厚生連	約61,000	(2021.3.31)
済生会	約35,900	(2020.3.31)

訪問看護ステーション数

民医連	234	(2022.1.31)
日赤	46	(2016.3.31)
厚生連	97	(2021.3.31)
済生会	52	(2022.1.31)

診療所数

民医連	484	(2021.3.31)
日赤	5	(2021.3.31) (健康管理センター2を含む)
厚生連	60	(2020.3.31)
済生会	18	(2022.1.31)

1日平均の入院患者数

民医連	21,329	(2020年度)
日赤	約23,000	(2020年度)
厚生連	約23,410	(2021.3.31)
済生会	約16,930	(2020.3.31)

病院数

民医連	142	(2021.3.31)
日赤	91	(2021.3.31)
厚生連	105	(2021.3.31)
済生会	81	(2020.3.31)

病床総数

民医連	24,902	(2020年度)
日赤	35,219	(2021.3.31)
厚生連	32,920	(2020.3.31)
済生会	22,244	(2020.3.31)

(調査日)

特集

東日本大震災から12年、

被災地

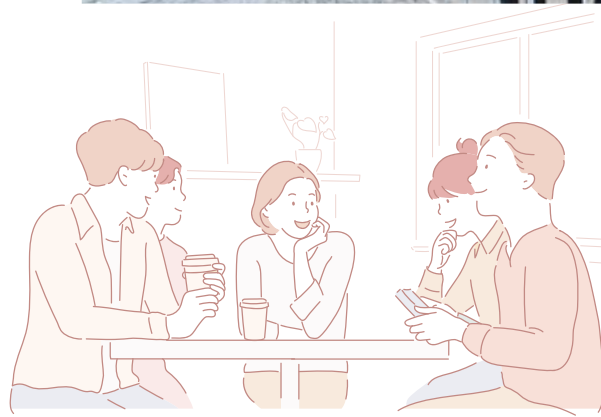
について

学ぶ



3月10日〜12日、大阪民医連
医学生奨学生集団で宮城・福島
の被災地フィールドワークを実
施しました。

大阪民医連としては2018
年以来的フィールドワークを実
施し、学生8名、医師1名、医学
生担当者5名で、今もなお続く
東日本大震災の影響を自分た
ちの目で確かめてきました。



当事者の 思いを学ぶ

3月10日、宮城民医連の坂総合クリニックの会議室をお借りして、震災当時の様子や宮城民医連が取り組む被災者支援活動の紹介、共同組織の取り組みについてお話しいただきました。



薬を求める患者の列



上記写真2点) 坂総合病院3・11記録スライドより引用

原発事故が 残したものは

11日は福島県へ。東京電力が運営する廃炉資料館に行き、原発事故はどの様にして起こったのか、廃炉作業の進捗と今後の予定を学習しました。

奇跡の小学校

津波で大きな被害にあったものの、生徒や職員が全員無事避難することができた奇跡の小学校として知られている、浪江町立請戸小学校を見学。自分たちの身長を軽く超える津波の被害を目の当たりにしました。地震が発生したとされる14時46分には海に向かい黙祷をおこないました。



14時46分の黙祷



津波の恐ろしさを物語っている



小学校見学



廃炉資料館

3/11

ディベート



■ 原発政策についてA班が賛成、B班が反対の構成に分かれてディベート

[A班] 立論

- ①電力の安全共有、発電効率が良い
- ②多くの雇用が守れる
- ③外交安全保障につながる

原発賛成

[B班] 立論

- ①災害・事故のリスク。いのち、健康被害、暮らしの破壊、莫大な費用・賠償金
- ②廃棄物処理の問題
- ③コストが高いため再エネ返還

原発反対

ディスカッション



災害時救援の拠点となった坂総合病院



講演

3/10



ディスカッションで 学び、深める

講演後は3班に分かれ各班に宮城民医連の職員が助言者として入っていただき、震災の時、宮城民医連ではどうしたのか、今はどうなっているのか、次にいかにすることは？など話しました。震災当時のリアルな様子と当事者の思いを聞き取ることができ、学びが深まったと感想がだされています。



「原発政策、 賛成？ 反対？」 ディベートを実施

ホテルに戻ってからは今年度の奨学生活動で取り組まれているディベートをおこない、原発政策「賛成」と「反対」でグループを分け、それぞれの立場で立論・政策を考え、多方面から原発について考える場としました。



6年生の追い出しコンパも行いました！奨学生活動を継承！



● 飯塚洋史 (三重大大学5年)

被災地近くまでバスで移動したので、帰宅困難地域の様子をバスの中から見る事ができました。震災当時の様子がそのまま残っており、復興が十分に進んでいるのか、帰宅できない住民の不安や不満はあるのかなど、今後調べてみたいと思いました。その後、東京電力廃炉資料館を訪れました。当時の事故の様子や、現在廃炉に向けてどれほど進んでいるのか、また今後の課題などを学ぶことができました。当時、メルトダウンが生じた原因が想定外の津波の襲来によるものであること、年間2000億円のコストをかけて

廃炉に向けていること、原発で働く労働者の労働環境が整備されてきていることなど、多くのことを学ぶことができました。

最後に訪れた震災遺構請戸小学校では、津波の衝撃で鉄骨の構造物でさえも大きく変形している様子に、津波に恐怖を知ることができました。また14時46分に黙祷をさせていただき、今度同じような天災が生じた時には、医師として被災者に対して全力で向き合いたいと思いました。



● 東條賢士 (大阪公立大学5年)

私は今回の東北へのフィールドワークに行くまで、3・11の震災についてはテレビやネットで見ただけで、漠然と「大変な震災だったんだ」と思っていました。実際、津波による被害が記録されている請戸小学校を訪れ、震災時の津波の高さを見て、津波の恐ろしさについて、体感することが出来、今後震災が起きた際には自分にできる支援をしたいと思うようになりました。

また、同日に訪れた東京電力廃炉資料館で、福島第一原発事故について詳細に学びました。原子力発電は、エネルギー需要を満たす上で重要な役割を果たしていますが、事故や放射能の漏出の可能性があることを考えると、リスクが高すぎると実際の事故の映像を見て思いました。現在も原子炉や使用済み核燃料プールの冷却や、

汚染水の処理など、長期にわたる復旧・復興作業が続いています。

現在温室効果ガスの排出を削減するために、再生可能エネルギーの技術が進化しています。まだ完全に置き換えることができない場合もありますが、今後、この悲惨な事故をもう一度起こさないために、私たちは、原子力発電を選択する前に、安全性やリスクについて真剣に考え、政府や産業界による適切な規制と監視が必要だと思っています。



● 清水智也 (東北医科薬科大学5年)

2日間を通して、東日本大震災では、坂総合病院が災害時の拠点となり、被災地域の支援などを行っていたことが分かりました。また、宮城県、岩手県、福島県の被災三県の間でも支援の差が出ていることを学ぶことができました。

また、福島県の原子力発電所は、もともと津波による対策案が出ていたが、それを実行せずにいたため、大きな被害が出ることが分かりました。



● 阿比出輝一 (奈良県立医科大学6年)

1日目では、被災者の話を聞き、リアリティを持って被災時の状況や、感情を知ることができました。

避難所が大変な悪い環境で、鬱の人も多かったこと、10年経過すると家賃の減免がなくなり出て行かざるを得なくなるなど、十分でないサポート体制であることも理解できました。グループディスカッションでは、宮城民医連の方からのお話を伺うことができ、被災時は12時間交代という激務で病院窓口の対応をしていた、という話が印象に残っています。

2日目は資料館と小学校に行きました。資料館では原発の構造、地震時どのようなシステムが破綻したのかなどについて、

地震時の中学

生だった自分には

理解できなかったようなことを多く知ることができました。

何度も職員の方が謝っている姿が印象的でした。

請戸小学校では被災時の姿がそのまま残っており、津波の脅威を初めて目の当たりにし、自分も常に準備は怠らないようにしようと思われました。また、被災時の住民の感情が想像され、涙が止まらなくなりました。黙祷し被災者の冥福を祈ると共に復興も祈りました。



参加者集合





結城 由恵

Yuuki Yoshie
(広島県立上下高校卒)

(西淀病院 副院長)

PROFILE: 山梨医科大学 1995 年卒。日本内科学会 認定内科医、日本内科学会 総合内科専門医、日本糖尿病学会 糖尿病専門医、日本糖尿病学会 研修指導医

HPH

(Health Promotion Hospital and Health services)

HPHの出会い

私は糖尿病を中心とした内科医として診療をしてきました。長期に患者さんを診ていると、その中にどうしても良くならない患者さんがいます。悲しい結末になった患者さんもいます。どんな薬を使っても、指導をしても改善しない。その背景に、生まれた環境や経済的困難があると何となく気づいていました。そんな時、2009年福岡県の千鳥橋病院（日本で一番最初にHPHに加盟の舟越光彦先生から、HPHのお話を聴く機会を持ちました。その時、私の進む道は、これだと確信しました。

「HPH」健康の社会的決定要因: social determinants of health

1986年11月に「第1回健康づくり国際会議」が、オタワで開催され「オタワ憲章」でヘルスプロモーションが提言され、健康づくりに欠かせないとされる健康の前提条件が明示されました。それは、平和であり、住居があり、教育が受けられて、十分な食料があり、収入があることです。これらの健康の前提条件は、1988年に健康の社会的決定要因(SDH: Social Determinants of Health)として整理されました。

2022年度は再開し、6校で実施しています。

毎月22日はスワンスワンの日、禁煙の日として、病院周りのタバコの吸い殻拾いを行います。

15分程度お揃いのビブスを着て、地域に向けての啓蒙活動の一環となっています。



スワンスワンの日

「HPH介入シート」

2020年から始めた活動です。問診表に①喫煙、②アルコール、③運動、④肥満、⑤低栄養、⑥経済的困難・社会的孤立の6項目をHPの介入項目として入れました。介入必要となった患者さんの元に職員が訪問します。

喫煙、アルコールの対象者には病院のHPH委員が禁煙教室、禁煙外来、アルコール教室へ案内やパンフレットを渡します。まだこれからですが運動、肥満、低栄養はリハビリテーション科と食養科が介入します。経済的困難、社会的孤立についてはケースワーカー、友の会担当者が対応しています。経済的困難以外の項目はまだまだ介入率

なにわの医療道場

大阪民医連の医療活動

HPHとは、人々が自分の健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスです。HPHはヘルスプロモーション活動(HP活動)を推進し、病院が単に病気を治す場所だけではなく、地域社会の健康づくりや健康格差の解消を目指しています。これは、今まで民医連が行ってきた活動に通じます。

西淀病院とHPH

西淀病院が、HPHに加盟したのは2014年8月です。西淀病院の属する法人の理事会方針として決定され、同年9月に第1回の法人HPH委員会が立ち上げられました。

これまで民医連がかかわってきた医療活動をデータ化し可視化していくことが大切です。そのデータを元に地域を改善していくために、より良い方法を考え、エビデンスに基づいて行政に訴えていくことも大切です。コアメンバーになるHPH委員を選出し、委員会をスタートさせました。

2016年4月からはHP活動がHPH委員だけでなくとどまらず、職員みんながHP活動の意義を理解し活動していくために、西淀病院内のHPH委員会が発足しました。各職場で自分たちの健康にも目を

は低いのですが、これから介入必要な対象者全員介入を目指したいと思っています。

「スクエアステップ」

子どもからお年寄りまで参加でき、身体機能の発達、体力づくり、認知症予防、介護予防に適したエクササイズです。集いの場の提供、介護予防の取り組みとして企画されました。楽しみながら気軽にできることから社会参加の点からも良いとされています。職員と友の会の方々を中心となり西淀川区の各地域にグループができました。小学校の体育館を借りてスクエアステップフェスタも開催しました。しかしコロナ禍で活動の中断を余儀なくされました。2022年後半から、ようやく徐々に復活してきています。



スクエアステップ

「地域診断」

J-HPHのワークショップで地域診断の意義と手法を学び、是非われわれもやっ

向けながら、患者さんや地域の健康を支えていくための活動を共有し、入院患者さんに対するHP活動を中心にしなが、地域に向けた活動にも積極的に参加しています。

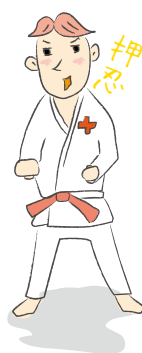
西淀病院のHPH活動

「喫煙防止、たばこへの取り組み」



喫煙防止教室

西淀病院がある大阪市は、不名誉なことですが日本の政令指定都市の中で全国第2位の喫煙率です。小学校高学年以降に喫煙経験者数が増えるため、それまでに喫煙防止教育が必要と考えました。2012年から医師による小学校への働きかけから始まり、小学校高学年を対象に喫煙防止教室を実施しました。2016年からは医師会の協力も得て西淀川区の活動として認められています。国際カンファレンスで発表しました。西淀川区小学校全校で実施を目標にし、全13校中、11校まで開催するに至りましたが、コロナ禍で一旦中止を余儀なくされました。しかし、



てみよう」と企画。2019年1月に開催。区役所、医師会、地域包括、消防署、医師会、施設群から多数参加を得て、国保データや防災マップなどを利用して活発に意見を出し合いました。第2回は1回目で出された課題の中から「フレイル、虚弱」に焦点をあて、その中でのオーラルフレイルを中心に地域の問題点を出し合い、対策を考えました。そこから医師会・歯科医師会と協力して「西淀川区(得)にようん参考書」を食べる事は生きること編」の作成、病院では地域包括ケア病棟を中心に口腔ケア活動が進んでいます。今年度は「熱中症」をテーマに地域診断を企画しています。



この地域に生まれて、この地域で生活して、その人らしい充実した人生がおくれるように、そのための基盤をつくる、そのための支えとなる、そんな活動ができればいいなと常日頃考えています。

Think globally act locally: 地球サイズの愛をもって、できることから始めよう。
(J-HPH CEO 島内憲夫先生の言葉より)

合格 HISTORY

今できることを着実に行って、
自分を信じて走り抜く！

夢をあきらめないあなたへ 先輩からの応援メッセージ!!

みなさんこんにちは。この度滋賀医科大学医学部医学科に合格しました。

ここでは医師を目指したきっかけや一日医師体験についてお話ししたいと思います。

小さい頃から医師に憧れがあったのですが、高校一年生の時に身内に癌が見つかり、より強く医師を志すようになりました。闘病中の姿を見たことで、医師にはただ病気を治したり症状を和らげたりするだけでなく、患者さんの心の動きや普段の暮らしについても考慮した治療を行うことが求められているのではないかと感じました。

そして高校三年生の時、民医連の医師体験に参加させていただきました。特に訪問診療の見学では実際に何軒かのお宅にお邪魔し、その方々の生活を垣間見ることができました。患者さんの抱える病気や置かれた状況はそれぞれ異なるため、様々な社会背景や経済状況を知る必要があると感じました。また、医師や看護師の方々の姿を見て、そうした幅広い知識をもとに誠意をもって患者さんと接することの大切さを学びました。この体験を通してより目指す医師像が明確になり、受験勉強のモチベーションに繋がりました。ぜひみなさんも参加してみてください。

受験において不安なこと、辛いことが多くあると思います。ですが、今できることは何かを考え、それを一つずつ着実にやっていくことが大切だと感じます。不安やプレッシャーに負けず、自分を信じて走り抜けてください。きっとその先には明るい未来が待っています。

応援しています。



滋賀医科大学 1 年
おおたに かのん
大谷香暢 (大谷高校卒)

申し込み
方法

医師体験



イベント



または

大阪医学生・研修医ドットコム 検索
<http://www.oskmin-igakusei.com/>

医学部をめざす

高校生・受験生のみなさんへ 未来の医師を応援



医師体験

平日、日本各地にある民医連加盟の病院や診療所で医師体験を実施しています。お近くの事業所をご紹介しますのでお気軽にご相談ください。医師体験では医師との懇談や診察見学、病院・診療所の検査機器などの見学やオペ室見学、時にはカンファレンスに参加したり、訪問診療で患者さんのお家に伺ったり、あまり見ることもない医師の働き方を知ることができます。また、介護施設などの福祉施設見学もできますので、事前に興味のあることを教えてください。

※現在は各病院と一部の診療所で感染対策を徹底した上でおこなっております。

医学生と しゃべり場

6月と10月に開催しています。様々な大学の医学部に受験時の悩みや勉強の仕方、予備校の選び方などざっくばらんにお話しすることができます。時には保護者の方の悩みにもこたえてもらうことも。医師の講演会もありますので医学生と一緒に学べる企画です。しゃべり場に協力してくれる医学生ボランティアも募集中！



医学部受験には避けて通れない、医療倫理の分野から「安楽死」や「セクシャルマイノリティ」などをテーマに学習と交流を行っています。教材から、「患者の立場ならどう思いますか?」「家族の立場なら?」「お医者さんの立場なら?」と、様々な立場での視点でディスカッションをします。自分の意見をしっかり伝え、相手の意見も尊重し、医師と一緒に、多様な意見があることを学びます。医師や医学生との交流もしっかり
※現在はオンラインでおこなっております。



医療・倫理 セミナー

医師講演会



今年は医師講演会を夏に合計4回オンラインで行いました。コロナ禍での医療現場のリアルや若手医師から医師を目指したきっかけややりがいなどを講演してもらいました。オンラインなどで気軽に参加できます。また関西以外の高校生も多数参加してくれました。今後もオンラインをフル活用して開催していきます。



推薦入試とセンター試験後の時期に開催。
「面接とは?」のレクチャーの後、医師と管理職のプロの面接官を前に面接を行います。志望大学の過去の面接内容を質問項目にあげ、面接後はフィードバックを行います。交流会では参加者や医師との交流も行います。

模擬面接会

その他、合格おめでとう会 & 入学前実習や
さまざまなボランティア活動もやっています!!

西淀病院 内藤茂之
(西大和学園高校卒)

SHIGEYUKI
NAITO

みなさん、初めまして。西淀病院2年目研修医の内藤茂之と申します。研修医エッセイを書いて欲しいという依頼を受け、こんな私が何を書けばいいのか戸惑いながら今文章を書いていきます。

簡単に医学部卒業から1年を振り返ろうと思います。

大学卒業後、将来の自分を想像しながら初期研修のスタートを待ち望んでいましたが、実際研修が始まってみると自分の知識のなさを突きつけられ、患者さんのための医療をできている実感はなく、社会人としてのマナーや他職種とのコミュニケーションなど医学的な面以外でも想像と違う現実と落ち込んだりしました。

落ち込んでいる時には周りの方々に話を聞いてもらい励ましてもらうことで何



とか頑張ることができ、徐々に患者さんに感謝されることも増えていきました。

そんなこんなで1年を過ごしてとうとう2年目に入っています。

今は目の前のことをひたすらこなすことに必死で、医学部に入った当初の目標が見えにくくなる時が増えていきます。そんな私でも、何とか1年目を終えることができたのは周りの方々のサポートがあったからだとかから思っています。周りの方々には、2年目に入りさらに迷惑をかけることが増えると思いますが自分なりに頑張る気持ちは変わらず持ち続けていきますのでこれからもご指導ご鞭撻のほど、よろしく願っています。

新社会人の方々、入職おめでとうございます。ワクワクした気持ちと不安な気持ちが入り混じっている方も多いかと思いますが。辛い時、悩ん



内藤茂之のPROFILE
●徳島大学2022年卒業、
西淀病院初期研修2年目。

だ時は迷わず周りの方にSOSを出してください。周りの方全てがあなたのことを理解してくれるかはわかりませんが、理解してくれる方は必ずいます。学生の方、とりあえず学生生活を楽しんでください。どんな過ごし方でもいいとは思いますが、楽しくても辛くても何かに没頭できた方がいいのかなと思います。

以上です。失礼します。

近畿大学医学部5年生 吉川真理子
(四天王寺高校卒)

MARIKO
YOSHIKAWA

初めまして、近畿大学医学部医学科5年生の吉川真理子です。昨年度の活動も踏まえて、学連(近畿大学医学部学生連絡会)の活動についてお話しさせていただきます。

学連は、近畿大学医学部の自治会であり、学生生活の向上を目指して日々活動しています。アンケートなどで学生の意見を募集し、解決すべき問題を抽出し、解決策を考え、学校側に提案しています。昨年度では、自習室の整備や利用規定の作り直し、ロッカーの対面授業が本格化したのと同じに出てきた問題でしたが、複数回のGoogle Formによるアンケートとさまざまな提案で解決することができました。部活動に関しても、対外試合や大会の参加・実習生の部活動参加の許可を得るべく、他校の状況を調査し、各部活動での感染対策の取り組みなどをまとめ、学校側に提案することで、許可していただくことができました。今後、さらに学校生活がコロナ禍以前のように活発になれば、さらなる問題も出てくるかも

しれませんが、これまで行ってきた定期的な学生アンケートを駆使し、対応していければと思います。

そして学連は、医学連(全国の医学部自治会の連合)に参加し、他大学との交流を行っています。医学連では、他大学の活動を知ることができ、前述の調査のように、医学連で交流のある他大学にご協力いただきました。医学連での交流は主に渉外と呼ばれるメンバーが担当しており、今年度からは低学年のメンバーを増やすことでさらなる活動の活性化に繋がればと期待しています。また、今年は、医学連主催の全国医学生ゼミナールが大阪で開催されることになりました。近畿大学も微力ながら開催のサポートを行っています。

今後は、学連は近畿大学の学生生活の向上だけでなく、全国の医学生全体の活動にも貢献できるよう活動していきます。



医学連(全日本医学生自治会連合)
ホームページ
<https://www.igakuren.jp/>



国試対策にも役立つ なるほど道場

国試対策も役立つ問題を3問出題します。正解者の中から抽選で**10名様**に「**Quoカード1000円分**」をプレゼントします。当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。クイズの正解は次号で発表します。

締め切り 2023年12月31日(日)

今回の出題

Q1 破傷風が発症した際の致死率は？

- a 40% b 30% c 50%

Q2 破傷風トキソイドの適応で最も大事な問診は？

- a 怪我をした場所 b 予防接種歴 c 年齢

Q3 グロブリン投与が考慮される場合は？

- a 汚染リスクの高い創 b 汚染リスクの低い創 c 感染兆候

出題してくださる先生

あ び る き い ち
阿比 当 輝 一

(北野高校卒)
PROFILE ● 2023年奈良県立
医科大学卒業。耳原総合病
院研修医1年目。



応募方法

応募締め切り：2023年12月31日(日) E-mail送り先：**igakusei@oskmin.com** 「なるほど道場」プレゼント係
応募方法：①～③までの答えを明記し「お名前」「ご住所」「電話番号」「大学名・学年」「取り上げてほしい
記事」を記入し、左のE-mailアドレスまで送信するか同封のはがきにご記入のうえ下記住所ま
でお送りください。ご不明な点は下記までお問い合わせください。

● 大阪民主医療機関連合会（大阪民医連）
〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 創建本町ビル2階 TEL：06-6268-3970 FAX：06-6268-3977

No.79の答え Q1. a Q2. b Q3. c

ええやん！
皆さんに当会の取り組みを知ってもらうために担当スタッフが様々な記事を絶賛配信中です。
イベントや病院見学など、みなさんにも有益なお知らせを散りばめています。
気に入った記事があったら、ぜひみなさんの「ええやん！」をお願いします。



@osaka.miniren.igakusei



@oskmin_igakusei



http://www.oskmin-igakusei.com/



SUPPORT CENTER

- 阿倍野医学生サポートセンター
〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町 1-1-17 サンビル阿倍野 4F
- 枚方医学生サポートセンター
〒573-0051 大阪府枚方市三矢町 5-18 メゾン枚方 114 号室
- 狭山医学生サポートセンター
〒589-0023 大阪府大阪狭山市大野台 1-32-62 ソレイユシンド

医学生のための
サポート
センター

大阪民医連では近畿大学狭山キャンパス、大阪公立大学阿倍野キャンパス、関西医科大学枚方キャンパスの近くに医学生サポートセンターを開設しています。無料で使用できる印刷機を設置してたり、Wi-Fiもあります。水曜日や金曜日にテイクアウトランチ会やテイクアウトディナー会を行っていますので、お気軽に利用してくださいね。

枚 方



関西医科大学のキャンパス徒歩5分の場所にあります。マンションの一室にあり、アットホームな雰囲気です。

大阪公立大学から徒歩3分の場所にあります。交差点をわたってすぐ!! 自習室のような場所です。



阿 倍 野

狭 山



近畿大学狭山キャンパス徒歩5分の場所にあります。奥には畳の部屋もあり、みんなでランチができる日が待ち遠しいです。